

平成31年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立国本中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成31年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 128人

② 数学 128人

③ 英語 128人

5 留意事項

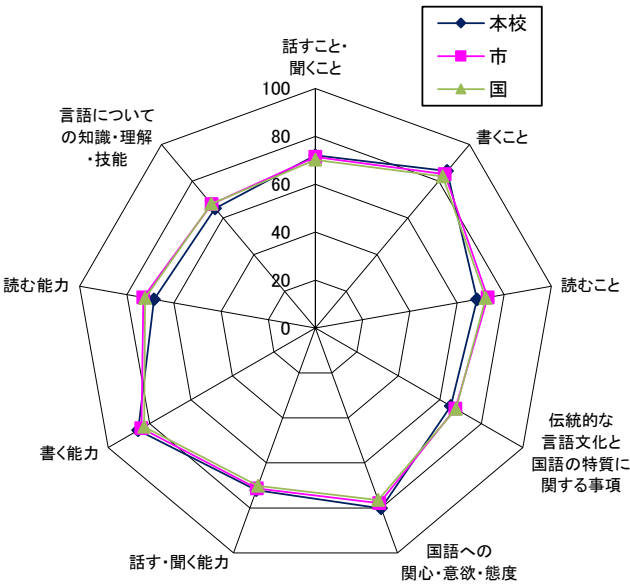
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、英語の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立国本中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	72.1	71.4	70.2
	書くこと	85.5	83.9	82.6
	読むこと	68.5	73.0	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	65.2	67.5	67.7
観点	国語への関心・意欲・態度	80.2	77.9	76.5
	話す・聞く能力	72.1	71.4	70.2
	書く能力	85.5	83.9	82.6
	読む能力	68.5	73.0	72.2
	言語についての知識・理解・技能	65.2	67.5	67.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

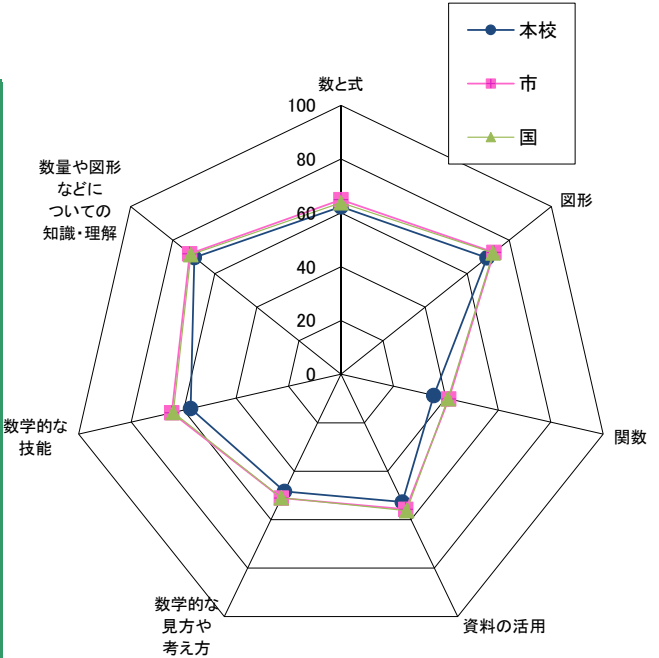
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○話すこと・聞くことにおける平均正答率は、全国、市ともに平均を上回っている。 ○特に「話し合いでの発言の役割」に関する問題では、正答率が全国平均を4%上回り、話し合いの話題や方向を捉える力が身につけていることがうかがえる。 ●話し合いの流れを踏まえ、「どうするか決まっていないうこと」について、自分の考えを書く問題では、無回答率が5.5%と高く、課題がある。	・場面や相手に応じた言葉を選択し、よりわかりやすく伝えることを意図した話し合いを設定する。 ・さらに質問紙において「目的に応じて自分の考えや意見を話したり書いたりしているか」という質問に対して、肯定的な回答は77.3%にとどまっているため、授業の中でも一部の生徒にだけ発言する機会を与えるのではなく、より多くの生徒にこういった機会を経験させていき、自分の考えを持つことと相手に分かりやすく伝えるスキルを学ばせていきたい。
書くこと	○書くことにおける平均正答率は、すべて全国平均を上回っている。 ○特に、すでに載っている情報の一部を用いて、意見文の下書きに「魅力」の具体例を書き加える問題では、正答率が全国平均を5%も上回っている。 ●ただし、同上の問題では、無回答率が5.5%と高く、課題が明らかになった。	・「書くこと」への抵抗感をなくそうと、授業でも自分の意見を書く場面を意識的に多く設けているので、今後も継続していきたい。 ・記述式の問題において、複数の領域の観点が絡む問題での無回答が目立つので、読み取った要旨を自分の言葉でまとめる活動や、文章の構成や展開を踏まえ、根拠を明確にして考えを述べる活動などを取り入れ、重点的に指導していきたい。
読むこと	○掲載されている短歌の中から一首を選び、感じたことや考えたことを書く問題では、全国平均を2.6%上回っている。 ●読むことの問題の3問中、正答率が上回ったのはわずか1問であり、特に文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える能力に課題がある。	・直接的な表現ではなく、登場人物の行動や言葉、情景描写から心情を読み取る活動をより積極的に取り入れ、行間を読む力の育成に努めていきたい。 ・また質問紙において「文章を読むとき、目的に応じて、必要な語や文を見つけたり、文章や段落どうしの関係を考えながら読んでいく」という質問に対して、否定的な回答をした生徒が21%という割合だったので、授業においても意識的に取り入れていきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●平均正答率は、全国平均を2.5%下回った。 ○語の一部を省いた表現について、話や文章の中での適切な活用の仕方を問う問題では、全国平均を0.2%だけ下回る結果となった。 ●封筒に宛て名と住所の書き方を問う問題では、無回答率が3.9%と高かった。	・ほぼ毎時間行っている、漢字や慣用句などに関する小テストの実施が成果に出ていると考えられるため、今後も継続的に取り組んでいきたい。 ・今後は書写の授業なども活用して、手紙や封筒の書き方など、生活に直接関わる、国語の特質に関する事項の指導も、季節や折に触れ指導していきたい。

宇都宮市立国本中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	62.3	64.9	63.8
	図形	69.5	72.8	72.4
	関数	35.4	41.1	40.8
	資料の活用	52.7	55.7	56.3
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	48.3	51.1	51.0
	数学的な技能	57.3	64.5	63.9
	数量や図形などについての知識・理解	69.7	71.9	71.3



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

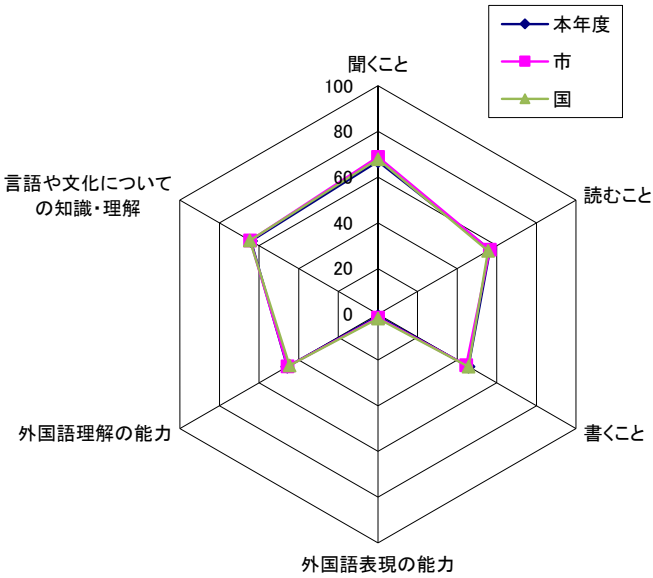
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○式変形を利用して事柄が成り立つ理由を説明する場面で、提示された事例を発展・応用させて説明することができている。例題の条件を変えて解いてみるなど、活用を意識した問題に取り組んだ成果と考えられる。 ●四則計算の可能性についての理解が低い。文字で表して一般的に考えることに対して、理解しにくいと思われる。	・折に触れ、数の世界の広がりや性質の一般性についておさえる。 ・文字式を用いることによって一般的に表せることのよさについて強調する。 ・習熟度別学習の場面で、計算技能の習熟を図る。
図形	本校の他の領域に比べて、平均正答率が高い。 ○平行移動や三角形の合同条件の意味がよく理解されている。具体的に作図をしたり、合同な図形を敷きつめた図で判断をする練習を行った成果と考えられる。 ●結論を前提に新たな事柄を見いだすことは、苦手な傾向がある。	・説明に必要な事柄は何かを先に考えるような思考順序に慣れさせる。 ・等しい長さ、角を図に印で表したり、式で表すことを並行して扱い、視覚的に理解が進むように工夫する。
関数	本校の他の領域や全国に関数領域と比べて、平均正答率が40ポイントを下回り低い。 ●グラフと式の関係をつまみ、問題解決の方法を考えることができていない。 ●グラフに表された事象を数学的に解釈する問題で、提示されたYが表すものを理解できていない。	・問題文の読み方や理解力に課題がある。図や表に表して考える方法を指導し、イメージ化する練習を行う。 ・xとyがともなって変わる2つの量を表し、グラフに表すことによって関係性が視覚的に分かることのよさについて触れる。
資料の活用	昨年度のとちぎっ子学力調査「資料の活用」領域の平均正答率と比べて、ポイントがやや高くなった。 ○最頻値や中央値等の用語の意味を理解し、説明に当てはまるものを選ぶことができていない。 ●表現力に課題があり、全体の傾向をつかみ、考えを説明することが難しい。	・代表値を用いてどんなことが言えるのか、日常の場面から考えさせ、興味・関心をもたせる。 ・話し合い活動など、気づいたことをあげてまとめ上げる作業を通して説明することに慣れさせる。

宇都宮市立国本中学校第3学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【英語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	聞くこと	66.9	68.9	67.9
	話すこと			
	読むこと	56.6	56.5	55.6
	書くこと	45.7	44.6	45.8
観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度			
	外国語表現の能力	0.8	1.5	1.8
	外国語理解の能力	45.8	45.6	44.7
	言語や文化についての知識・理解	64.1	64.5	64.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○聞くことの問題7問のうち、全国と県の正答率を上回った問題は2問、その他5問は全国と県の正答率を下回り、「聞くこと」の領域としては市の平均を2ポイント、全国の平均を1ポイント下回る結果となったが、平成30年度のとちぎっ子の結果(市との差-20.7ポイント)から大幅な向上が見られた。 ●記述式の問題の正答率は4.7ポイント(県8.8ポイント、全国7.6ポイント)で領域中最も低く、無解答率も45.3ポイント(県41.3ポイント、全国42.3ポイント)と約半数の生徒が無回答であった。	・前年度の指導の重点として継続して行ってきた小会話や会話での交流や、語のつながりを意識させた発音による音読、ALTとのリスニング活動の成果が見られることから、今年度も継続していく。 ・聞き取った内容を元に、自分の考えを表現する問題において無解答が約半数、正答率は全体の約5%と非常に低かったことから、天候や時間などを問うQ&Aではなく、自分の意見や考えを引き出すQ&Aをウォームアップの中で意識して行っていく。
話すこと		
読むこと	○読むことの問題6問のうち、全国と県の正答率を上回った問題は5問、無解答率はすべての問題で県、全国を下回った。また、書かれた英文に対して自分の意見を書く問題においては、正答率12.5ポイント(県10.6ポイント、全国10.9ポイント)で、無解答は18.8ポイント(県28.1ポイント、全国27.9ポイント)であった。 ●ある市の月ごとの平均気温を表すグラフを見て、読み取れることを正しく表している英文を選ぶ問題では、唯一県、全国ともに正答率が下回った。	・前年度の指導の重点として継続して行ってきた代名詞を意識した読み取りの指導や、疑問詞を用いた本文に関するQ&Aを今後も継続していく。 ・県や全国の前年度正答率を下回った唯一の問題では、比較の表現の定着度というよりも、1月から12月までの基本的な英単語が未定着であることが、誤答の主な原因と考えられることから、1年次に学習する基本的な語句について、確認し繰り返し復習する指導を行っていく。
書くこと	○選択式解答の2問について、正答率はいずれも県、全国を5ポイント以上上回った。また、短答式の5問のうち、3問が県の正答率を上回った。活用である記述式解答の問題では、正答率こそ0.8ポイント(県1.7ポイント、全国1.8ポイント)と低かったものの、無解答率は6.3ポイント(県8.2ポイント、全国8.3ポイント)であった。 ●3人称単数現在時制の肯定文、否定文を正確に書く問題では、正答率が県、全国いずれも下回った。	・前年度の指導の重点として継続して行ってきた「話す」活動から「書く」活動へ活動をリンクさせながら自己表現させる指導を今年度も継続していくとともに、「読むこと」の領域でも見られた1年次の学習内容の確実な定着を図るため、基本的な語句だけでなく、1年次の文法事項についても確認し繰り返し復習する指導を行っていく。

宇都宮市立国本中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「先生はあなたのよいところを認めてくれると思いますか」の質問で、肯定的割合が92.9%と全国平均より、10.7ポイント高い。1年生のときから、誉めて伸ばす指導を続けてきたことが奏功していると考えられる。

○「あなたの学級では、学校をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思いますか」の質問に「あてはまる」と回答した割合が40.6%で、全国平均より15.3ポイント高い。1年生のときから、学級の諸問題について、学級活動で話し合い活動を重視してきた成果と思われる。

○英語の「読む、書く、話す」などのすべての活動において、「行われているか」という質問に対し、すべての項目で「行われている」という回答が20ポイントを超えている。今後も継続したい。

●「将来の夢や目標を持っていますか」の質問に対して、「当てはまる」と回答した割合が37.5%と、県平均より11.7ポイント低い。自分らしい進路を考えていくためにも、夢や目標を持つことは大切である。今後は総合的な学習の時間に外部講師を招いたり、学級活動で進路指導を充実したりして、学年通信などの発行を通して生徒に啓発していきたい。

宇都宮市立国本中学校（第3学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・「生徒を認め生かす授業の工夫～学びに向かう力や人間性をはぐくむ～」 (1)基礎・基本の確実な定着 (2)学習指導の工夫・改善 (3)読書活動の充実 (4)家庭・地域との連携・協力	・話し合いや学び合いを取り入れ、多様な視点から課題について考えさせる協働的な学習 ・「家庭学習」指導を視野に入れた授業づくりと、基礎的・基本的な知識の定着 ・効果的な発問、指示、助言、板書、ノート指導法の工夫と改善 ・学習相談の実施 ・朝の読書の実施 ・ブックトークの実施 ・図書館だよりの発行 ・「茶摘み」「学校農園」「体育祭」「学校祭」などの家庭・地域から協力を得た学校行事の実施 ・保護者・地域と連携した土曜授業の実施	・話し合い活動を取り入れ協働的な学習がなされている。 ・家庭学習については、予習復習をしているポイントが高い。 ・ボランティア活動については、地域にあるボランティア団体への参加及び生徒会福祉委員会のアルミ缶回収による車いす寄付活動等により、ポイントが高い。 ・地域とのかかわりについては、多くの項目で高いポイントである。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・全般的に良好な回答結果であったが、「将来の夢や目標をもっていますか」、「あなたは将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思えますか」の質問に対しては、「当てはまる」と回答した生徒が県や全国の平均を大きく下回っていた。また、「今回の数学の問題について、回答を言葉や数、式を使って説明する問題がありましたが、どのように回答しましたか」の質問に対しては、最後まで書こうと努力せず、書く問題で回答しなかったり、回答を書くことを途中で諦めたりした生徒の割合が全国や県の平均を大きく上回っていた。キャリア教育等を中心に将来に対する夢や目標のもてる学習環境を整えるとともに、自分の目標に向かって粘り強く学習を積み重ねていくことの大切さを理解させる必要がある。	・「生徒を認め生かす授業を展開し、学びに向かう力をもつ生徒の育成」 平成28年度から3か年計画で実施されてきた重点目標を継続発展させ、学びに向かう力や人間性を育むための視点を取り入れることで、生徒が自ら課題を発見し、解決に向けて主体的・協働的に学ぼうとする意識や態度を育む授業の展開を続けていく。	・素直に宿題や予習復習に取り組んではいるが、より高い目標に向かって努力することの意義を理解させる。 ・自分の目標に向かって粘り強く計画的に学習することの意義を理解させる。 ・生徒が自ら課題を発見し、解決に向けて主体的・協働的に学ぼうとする意識や態度を育む授業の展開をより充実させる。 ・話し合いや学び合いを取り入れ、多様な視点から課題について考えさせる協働的な学習の工夫。 ・効果的な発問、指示、助言、板書、ノートの指導法と改善。 ・授業のねらいの明確化と振り返りのあり方、1時間の授業のスケジュールを考えた授業構築の追究。